

「やーなれー運動」夢実現 「親の学び合い」

八重山地区家庭教育支援リーダー 吉 濱 剛

家庭は、子どもにとって初めて出会う社会です。家族という愛情で育まれ、家族が自分と社会を結びつける支えになって『社会っていいところなんだ』『人は信頼できるんだ』と認識し成長していきます。

幼子は、母親の懐から徐々に外の世界に冒険の旅へと飛び出します。

公園などの外遊びをするとき、子ども達は、親の顔を確認しながら徐々に離れていき、遊びながらも時々親を振り返り、不安になったらすく親の下に駆け寄っていき、愛情のエネルギーを充電して、安心したらまた徐々に離れて外の世界の冒険を楽しみながら成長していきます。子どもの健やかな成長は、根本において親の深い愛情に支えられています。

また、学童期になると、毎日のように交わされる「行ってきます」と「ただいま」。

「行ってきます」と子どもの元気な声に伝えて「行ってらっしゃい」の親の声に背中を押され、飛び出し、一日の冒険の旅が始まる。子どもにとって外の世界は、毎日が出会いと冒険の連続で、日々成長を続けています。

出会いと冒険の旅を終えて家路に着き、「ただいま」の声に伝えて「お帰りのさい」の返事に心の居場所を確認し、安住の地として安らぎの中に明日に向けての心のエネルギーを満たしています。

ところが、少子化、核家族化、小家族化、地縁、血縁関係が弱まる中、身近に子育てのモデルがいなくなってきたという現状があります。

その結果、親は、子育てで不安や負担感を抱え、自信が持てなく、孤立感で悩みを抱えている。

また、近年増えつつある児童虐待の要因も、社会的孤立感、子育てで不安感等にあるといわれています。

共働き世帯が増えた現代の子育てには、子どもとのコミュニケーションや親自身のストレス対処法について気づき、親同士が学び合う機会の提供が必要になっていきます。

親にとって同じ悩みを抱える親や子育ての先輩など、同じ課題を考える事ができる身近な人とながることで安心して子どもにかかわることができるようになります。

親同士の学びを保証するには、地域やPTAのつながりのある環境を活用して、親同士の学び合いの場を提供し、子育てを振り返ったり、悩みを素直に語り合う場を身近な所で展開できるようにすることが求められています。

そのために、沖縄県では、「やーなれー運動」を展開し、親同士が子育て情報をシェアし、一緒に家庭教育について考え、出来ることから始める「親の学び合いプログラム」を開催しています。

沖縄の方言で「やーなれーる ふかなれー」という教訓的なことばには、家庭でのしつけや習慣が、外に出たときのかかみ(鑑)になるという思いが込められています。

沖縄県では、「やーなれー運動」を県民運動として展開し、次世代を担う子ども達のために、家庭教育力の向上を目指しています。

「やーなれー運動」では、学校・幼稚園・保育園・PTA・地域等の身近な地域でお互いに交流しながら、家庭教育について、ともに気づき・考え・楽しく学び合うことのできる参加型の学習プログラムで構成されています。

できることから始める親の学び合いプログラムに参加してみませんか。

問い合わせ先：沖縄県教育庁八重山教育事務所家庭教育支援リーダー 吉濱剛

☎ 0980-82-3622 E-mail: yanare@pref.okinawa.lg.jp